

天下三槍

ver 2.0

The Three Great Spears of Japan

天下三槍とは、日本国内で名のある槍の数々の中でも、特に名高い三本の槍をさすものです。刀剣における名刀「天下五剣」にあわせてか、時期は不明なれど明治頃より呼ばれるようになったものと考えられています。いずれにしろ江戸時代よりよく知られた名槍ぞろいで、現代でもその名を知る人は多いでしょう。残念ながら、御手杵のみは戦時中の焼夷弾による空襲で焼失してしまい、実物は残っていません。

日本号

NIHON-GŌ(The Japan Spear)

「酒は飲め飲め 飲むならば 日本一のこの槍を」と黒田節にうたわれる天下一の名槍が、この日本号です。その来歴は、まず皇室に献上され、正親町天皇から足利将軍家に下賜、更に豊臣秀吉に渡り、福島正則の所有となりました。そこで黒田家からの使者、母里太兵衛が大杯を飲み干すことで褒美として頂戴しました。

現在は福岡市立博物館に展示されています。

蜻蛉切

TONBOKIRI(The Dragonfly Cutter)

徳川四天王の一人で、東国一の勇将とも呼ばれた本多忠勝の愛槍が蜻蛉切です。数々の戦場で使用されてきましたが、ある時、立てた槍の穂先にぶつかった蜻蛉が真っ二つに切れて落ちたことから、この名がつけられたと伝えられています。

現在は個人収集家の手元にありますが、レプリカが本多氏のかつての領地、愛知県岡崎市で展示されています。

御手杵

ver 2.0

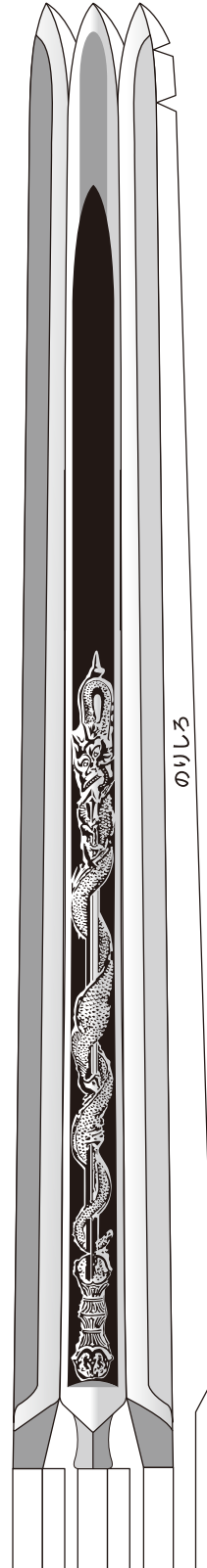
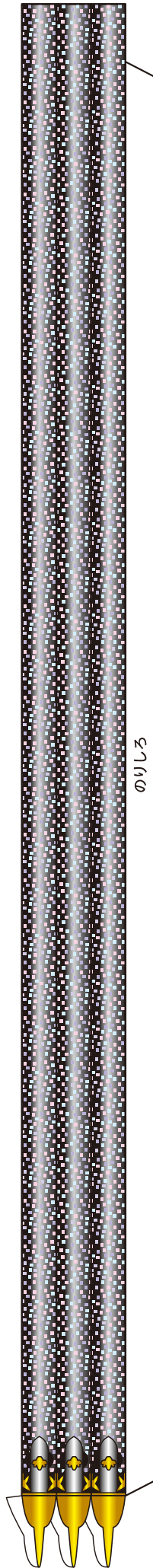
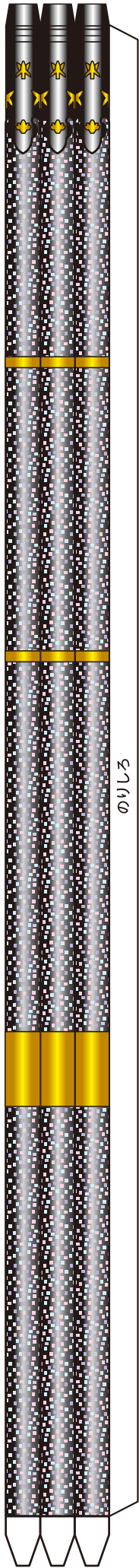
O-TEGINE(The Hand Pounder)

穂先の長さが30cm（1尺）以上あるものを大身槍といいます。駿河島田の鍛冶によって鍛えられた御手杵は、穂先が138cmもあり、史上空前の大きさで世に名を知られていました。

関東の名家、結城家が作らせ、徳川家から養子入りした結城秀康が愛用した名槍です。後に秀康の子孫で結城家の名跡を継いだ、前橋／川越藩松平家に所蔵されましたが、惜しくも昭和20年の空襲で焼失してしまいました。近年になって静岡県島田市の有志がレプリカを作成し、結城家の故地である茨城県結城市に寄贈されています。

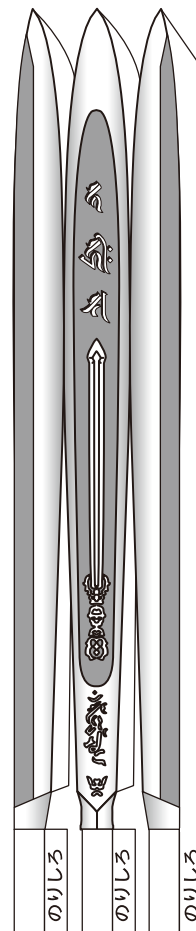
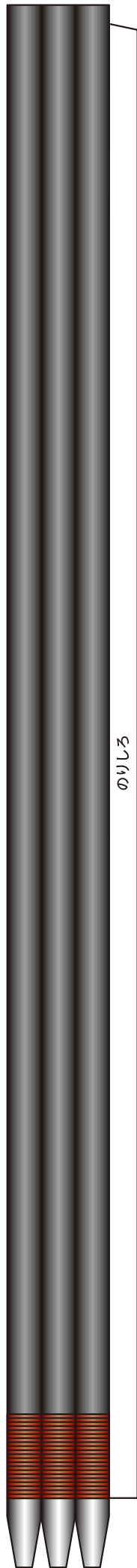
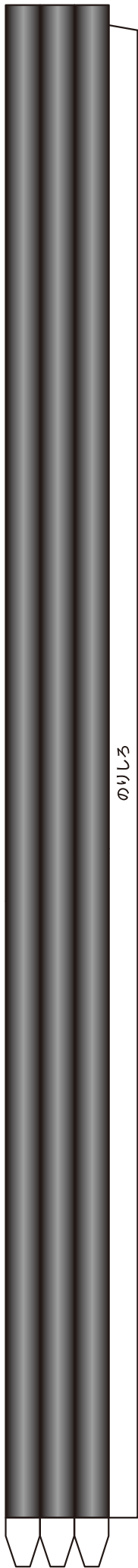
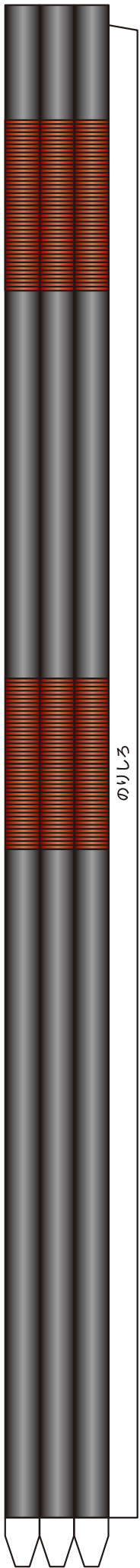
日本号

NIHON-GŌ (The Japan Spear)



蜻蛉切

TONBOKIRI(The Dragonfly Cutter)



御手杵

ver 2.0

O-TEGINE(The Hand Pounder)

